

令和6年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業  
中間支援振り返りシート（2025.3）

活動団体の活動におけるテーマ

『 クロスオーバー 』

活動団体の活動地域：新潟県新潟市

活動団体名：NIIGATA MUSIC LABORATORY

中間支援主体名：社会事業化団体SHE

# 活動計画（概要）

## 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

「新潟の街を素敵な街にしたい。思いやり溢れる支え合いの街に。沢山の個性を認め助け合う社会に」これが、活動団体のテーマである。その為にも、音楽をはじめとした多様な文化が街に溢れ、様々な価値観が共存しあう環境が新潟に育まれることを目指している。そして、このミックスカルチャーな環境こそが、地域循環共生圏を経て地域に寛容さと柔軟さを獲得する大切な要素となる。

## 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

・ **NEW HOPE**：意志のある人たちが集い、違うもの同士でも関わりあえる心理的安心が高いHOMEのような場。NMLが新潟駅南エリアで中心に企画し、主にリアルな機会を提供する活動体。

ローカルSDGs事業を通して

- 対立や分断なく新しい価値観に触れる
- 社会課題との接点が理解でき、自分の取り組みの方向性がわかる
- 意志のある想いにつれ、勇気をもって日常に踏み出せる

## ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ・ **Coffee House**：コーヒー片手に(かしこまらず)地域の課題を語り合う場。
- ・ **オーダーコーダー**：CoffeeHouseで出てきた課題(地域版マンガラ)を見ながら参加者同士で自分に何が出来るか?を考える場。
- ・ **SpecialEdition**：テーマを設け、先駆者であるゲストの方をお呼びしクロストークを行い、課題と理想を共有し、自分に何が出来るかを考える為のワークショップ。
- ・ **Slack**：オンラインで情報共有出来る場所。
- ・ **Fes**：個々の活動をリアルに体験でき、それをミックスカルチャーとして味わう場。

## 地域の現状

開港5 港の一つとして栄えた新潟市は、開港文化や農・漁・工業文化、これらに紐づく豊かな食文化が魅力となっている。ただ、人口減に加え、開業率が低いことから地域側のプレイヤー不足が課題としてあげられる。環境も資源も豊かな新潟だが、人材と資源のマッチングや人材同士のネットワーク形成が生まれる機会が少ないことも課題だと考えられる。

## 2026年度末の状態目標

2027(R9).3

金銭的にも体制的にもゆるやかに自立し、継続できるプラットフォームの状態。

## 2025年度末の状態目標

2026(R8).3

企業・団体・財団など地域の循環を支える仲間作り  
プラットフォームの自律分散化を目指した状態

## 2024年度末の状態目標

2025(R7).3

地域プラットフォームの運営／生まれた事業の実施  
成果・効果の確認と事業整理

## ■見立て

- ・この地域では担い手となる世代が受身的な思考を持つ場合が多く、県民性と言われる保守性が垣間見える。また世代間、行政と民間、など越境する場面でまだまだ在来的な価値観が強い。
- ・そこに対して活動団体NMLが得意な、自由でクリエイティブな発想を活かした活動が必要な要素として考えられる。
- ・活動団体が苦手とするマネジメント部分を整理役となって伴走することで、地域の課題を一緒に乗り越えられる。

## ■打ち手

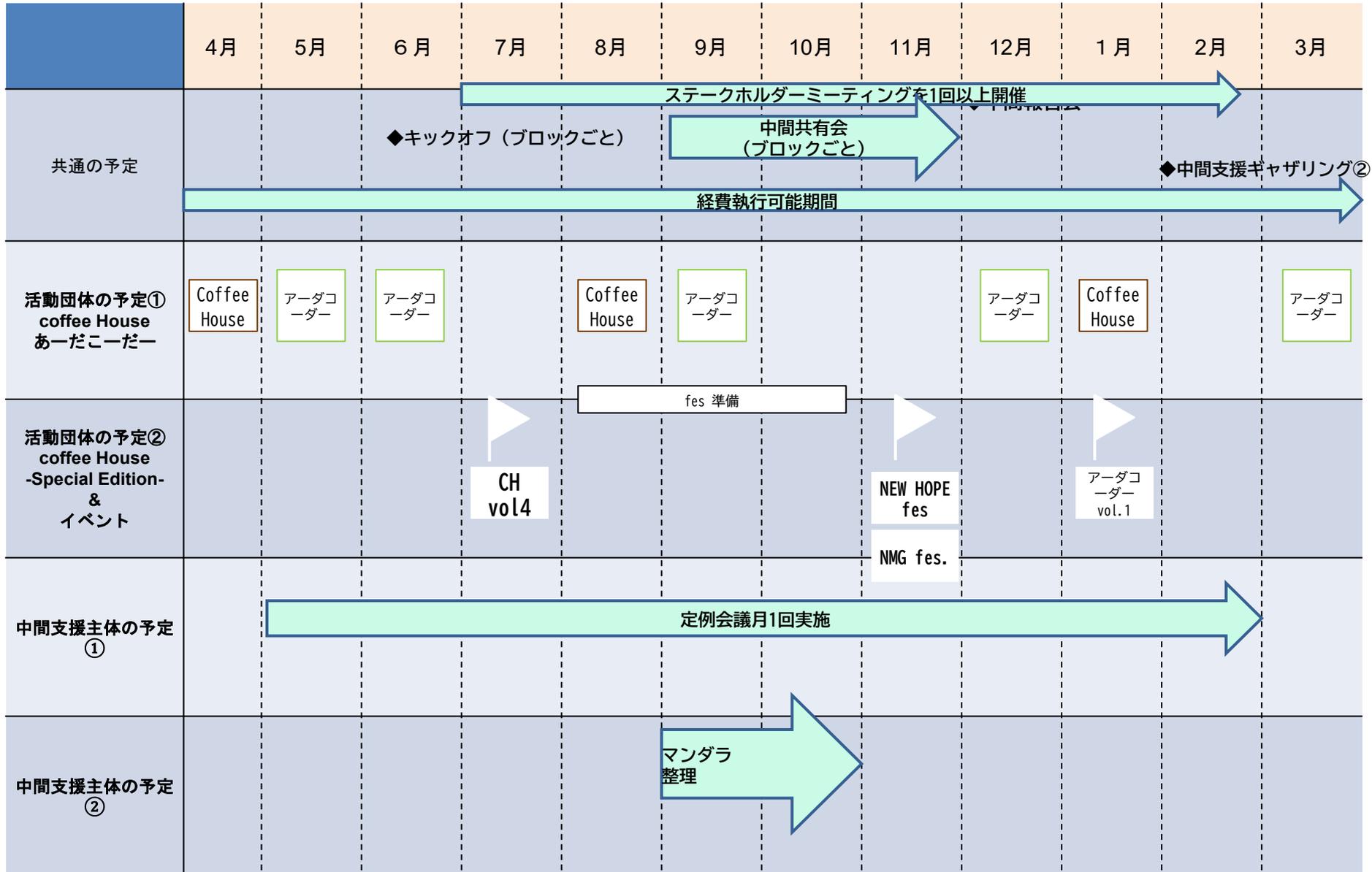
- 【定期的なマンダラ編集会議】  
地域と自分たちの課題、そしてそこに行政視点の課題も重ねながら整理し、身の回りの困りごとの共有を重ねていく。
- 【定期的な活動団体の棚卸作業】  
心理的安全性の高いコミュニケーションの場を創出することで、課題出しからリソースの活用へと取り組みを昇華させていく。
- 【長期的な視座での会議の設定】  
プラットフォームの状態や継続性、役割やあり方等、長期的な視座でのふりかえり。

## ■中間支援機能の強化・振り返り

本事業を通して、多様な地域の人材や外部のプレイヤーと触れあうことで、地域を見る視点が広がり、視座があがることで、地域の人材との関わり方や支援の幅が広がることを期待している。また、本事業を通して地域課題の解像度が上がり、そこに広がる見えない糸が見えてくることで、地域課題の解決の糸口が1つでも増えることを期待している。私たち自身が経験・ノウハウを蓄積し、新潟の未来に還元していきたい。

# 活動・支援のプロセスの振り返り

## ■R6年度活動・支援内容



# 活動・支援のプロセスの振り返り

## ■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

- ・地域のビジョンを描く：外部にありたい未来を発信し、反応を得る
- ・仲間を探す：関係者に想いやメリットを伝え、参加の機会をつくる

### 中間支援主体の支援

- 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て  
fesに盛り込むコンテンツに注力しすぎて、活動団体の狙いがぶれる可能性があったので、定期的なMTGと発信、準備を手伝う。
- 具体的な支援内容（打ち手）
  - ・ マンダラ編集
  - ・ 進行管理、コンセプトの確認
  - ・ イベント準備、発信、運営
- 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）

たまにコンセプトに立ち返り、何の為にやるのかを確認する意識が生まれた。
- 中間支援主体としての気づき・成長  
意図せず生れた結果もあり、その意図しないことにも意味があるので、狙いを持ちつつも狙わない部分の余白も大切にする。

### 活動団体の取組

- 活動名・時期  
2024/11/10 NEW HOPE .fes  
MOYORe; (新潟駅南口)
- なぜそれを実施したのか（実施目的）  
広くいろいろな人にNEWHOPEに関わってもらい、知ってもらう為の場としてフェスを開催。それぞれの想いや取り組みに触れ共感が広がりがクロスオーバーし、いくつかのプロジェクトが生み出されることを目指した。
- 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）  
自分を主語にした積極的なコミュニケーションとスモールスタート（事業のタネ）が生れるきっかけになった。共生圏に広がり生まれた。

# 活動・支援のプロセスの振り返り

## ■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル②

- ・地域のビジョンを描く：地域の関係者の話を仲間と共有する
- ・事業を生み出す：事業計画の内容を聞き、ともに考える

### 中間支援主体の支援

- 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て  
場の目的をクリアにできておらず狙いがぼやけていた為、活動団体の思いを明確にするために対話を重ね、進行管理を行った。
- 具体的な支援内容（打ち手）
  - ・ 進行管理、コンセプトの確認
  - ・ 狙いに向かう為の場づくりの為に、当日のファシリテーター役を担う。
- 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）  
参加者の聴く姿勢や発表者の感動を目の当たりにし、場づくりの大切さを改めて感じていた。また共感の広がり方についても、話す、聴く、受けとめるのサイクルによる共感があることにも気づきが生まれていた
- 中間支援主体としての気づき・成長  
予想以上に「聴く」という行為が日常になることがわかりその大切さに気づいた。

### 活動団体の取組

- 活動名・時期  
1/18 アーダーコーダー-specialedition
- なぜそれを実施したのか（実施目的）  
CoffeeHouseにて課題の抽出とテーマの深ぼりをしてきたが、それをより前向きに変えて行く為の機会としてアーダーコーダーを実施。specialeditionにおいては、1人1人の想いにじっくりと耳を傾け、具体的な取組みをより深く理解し、共感者が増え、活動が前に進むことを目指した。
- 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）  
薄く広くではなく、1人ひとりのプレイヤーへの理解を深めることができた。互いに深く聴くことで生れる感動の現場を活動団体として目の当たりにし、場づくりの質の大切さを感じ、共感のカルチャー（感性・想いの循環）が育まれているのを感じた。

# 活動・支援のプロセスの振り返り

- （特に前2スライドの支援を実施するにあたり、）今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？（中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入）→中間支援チェックリストは[ここに入力](#)

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目（番号）	支援をしたタイミング等
チェンジ・エージェント機能	プロセス支援機能	3	定例MTG, ワークショップ、イベントなど
チェンジ・エージェント機能	プロセス支援機能	2	日常的なコミュニケーションの中で（主は定例MTGの時）
チェンジ・エージェント機能	資源連結機能	2	ワークショップ、イベント開催時など

- 共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出せたか

活動団体の自由な発想と行動力を成果につなげていく為に、定期的な見直しや長期的な視座での目的の握りなおしを行った。活動団体が苦手とする言語化や論理的思考、プロジェクト管理の部分でサポートすることで、より広くこのプロジェクトに対する理解を広げることにも貢献できた。

- 中間支援主体として向上したと思う中間支援機能

中間支援主体だから、一歩後ろから見守らなければならないというわけではなく、場と目的に応じて活動団体と中間支援主体で、主と従を行き来しながら、多様な雰囲気と目的の場を開くことができるようになった。

それにより、互いに思いがけない場面に出会い、いい影響と刺激を受け合っている。

- R6課題だと感じたこと

- 活動団体と中間支援間におけるコミュニケーションの頻度と質を高めていく必要性を感じた。今年度の定例MTGにおいては、目の前の実施すべき事項に力点が置かれがちで、本質的な話や長期的な視点でのコミュニケーションの頻度が少なかった。

- 活動団体のプロジェクト推進力（事務処理能力等）の補い方の迷い。中間支援として全面的に補うのか、新たなメンバーを入れて、活動団体としてのエネルギーを高めていくのか？

# 地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

- 地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるといいと考えているか。R7～中間支援主体として今後どのようにになりたいか。

## 【中間支援人材の育成を行っていききたい】

地域の中に中間的立場の人材が少ない・少なくなってきたことを実感している。地域課題や関係性を理解しながら交通整理のできる人材育成を目指す。我々の育成能力の向上を目指しながら、活動団体の活動者から中間支援視点を獲得する人材の育成を想定する。

## 【活動継続の為の経済的クリア】

組織ありきではなく、日頃は個々が活動を展開しながら、ニーズに応じてチームで対応する自立分散型・可変型の中間支援体として取り組んでいくことで経済的課題に対応できると仮定して活動してみる。

- 活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）

## 【見立て】

次年度以降の持続的な活動を行うことを見据え、体制を整える事、運営資金を確保こと、理解者を増やすことが必要である。プラットフォームへ参加、支援するメリットを整理し、企業の参画を促す。

## 【打ち手】

自走化に向けた体制構築を支援していききたい。今後の継続的な体制運営の為に、非営利とは対をなす営利系のステークホルダーを太くする必要があり、プラットフォームへの参画メリット及び理念の言語化が大切だと考えている。その為に、継続的にMTGを実施していく。

## ● 地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと

- 活動団体が伸びやかに活動できる環境を作っていくために、現地での体験を共有いただき、ともに課題を話し合える関係性を築いていきたい。
- Newhopeが目指そうとしているプラットフォームのあり方の参考になる、事例の紹介。